

## CSRの取り組み

## 1 生物多様性格付(BD)の取り組みを開始

環境の変化や乱獲などによって希少な動植物の絶滅が地球規模で年々深刻化しているなか、あらゆる人間活動の基盤として位置付けられる「生物多様性」の保全や持続可能な利用等が求められています。

当行では、これら「生物多様性の保全」に向けた企業活動等を測定・評価するため、平成21年11月「生物多様性格付(BD)」を制定し、「豊かな生物多様性の継承と自然共生社会の構築」を目指した啓蒙活動の一環として利用していくことにしました。

具体的には、生物多様性への配慮が適切かどうかを8項目の指標で評価し、所定の得点以上のお取引先が「琵琶湖原則支援資金(PLB資金)」をご利用される場合、年0.1%の金利を引下げさせていただくもので、PLB格付と合わせると最大年0.6%の金利引下げが可能となります。

生物多様性の保全が重要であることは理解できても、事業活動との関連性を含め体系的に整理できている企業はまだ少ない状況です。本格付を生物多様性の重要性の「気づき」のツールや、生物多様性の保全活動に取り組みの際の「道しるべ」としてご利用いただけることを願っています。

## 生物多様性とは？

「地球では様々な生きものがつながりあい、支えあって生きており、その『多様性』を指標にして多様な価値を守っていこう」という考え方です。当行では、BDをBiodiversity(生物多様性)の略称として使用しています。

2 「ヨシ刈り」ボランティア  
「守り、育てる」活動から、「活用する」活動へ

当行では平成11年より毎年、琵琶湖の水質保全や魚の産卵場所として欠かせないヨシ群落を守るため、「ヨシ刈り」ボランティアを実施しています。本活動は「小さな親切運動」滋賀県本部の活動の一環として、地元企業の皆さまにも活動の輪が広がっており、当初は65人のボランティアでスタートしましたが、開始から12年目を迎えた平成21年度は4社のご賛同企業と共同で実施、2回開催で合計約800人が参加するなど、活動の範囲を拡大しています。

加えて、平成20年11月より、刈り取ったヨシを財団法人淡海環境保全財団がヨシ紙に加工のうえ購入し、役職員の名刺として活用しています。ヨシを「守り、育てる」活動から「活用する」活動へとステップアップしています。



ヨシ刈り



ヨシ紙名刺

### 3 外来魚駆除釣りボランティアを実施

平成22年5月22日(国際生物多様性の日)、琵琶湖の豊かな生態系を守り、生物多様性の保全に向けた取り組みの一環として、「外来魚駆除釣りボランティア」を初めて開催しました。

琵琶湖は、多くの固有種が生息する世界でも有数の古代湖であり、そこには貴重で豊かな生態系が育まれてきましたが、近年は岸辺の魚類のほとんどをブルーギルやブラックバスの外来魚が占めるようになり、少しでも外来魚を減らす取り組みが求められています。

当日は、草津市志那中湖岸に、当行役職員180人が参加し、ブルーギルなどの外来魚を1,530匹、61.3kg釣り上げました。

釣り上げられた外来魚は、障害福祉サービス事業所により回収され、魚粉等に加工した後、野菜の肥料として有効利用されます。



外来魚駆除釣りボランティア

### 4 誰にでも利用していただきやすい店舗づくり

CS(お客さま満足)推進の一環として、誰にでも利用していただきやすい店舗づくりにむけて、聴覚に不安のあるお客さまにも安心してご利用いただくための「耳マーク表示板」、筆談対応をより円滑にするための「筆談用ホワイトボード」を、国内の全本支店に設置しました。

また、ロビーやATMコーナーでお客さまをご案内する『ロビーアドバイザー』を対象に、ご高齢のお客さまやお体の不自由なお客さまへの“介助技術”と“おもてなしの心”を学ぶ「サービス介助セミナー」を実施しました。

全店の『CS推進リーダー』に対しても同様のサービス介助研修を実施し、接客のレベルアップに向けて取り組んでいます。

今後も全行をあげてCS向上に取り組んでまいります。



耳マーク表示板と筆談用ホワイトボード